

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070900582
法人名	社会福祉法人 伸和会
事業所名	グループホーム にいる
所在地	群馬県藤岡市藤の郷字温井12-4 (電話) 0274-40-3400

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 6月 11日

## 【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 1月 11日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤専任6兼務1人,非常勤 2人,常勤換算 8.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建て

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,900 円/1日	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日あたり 1400円			

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.5歳	最低	73歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島田クリニック くすの木病院 中村歯科クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この施設はのどかな田園の中にある。グループホーム以外にも社会福祉法人の施設があり広い敷地の中、その一角にグループホームがある。入浴は毎日でも対応でき、また夕方の入浴にも対応出来る。一人ひとりの希望を集団化したり合理化しないで自然な形でサービスに取り入れている。グループホームの事務的なものや文書などは法人が行っている。防災関係や緊急時の対応なども協力関係があり、夜勤は法人内職員と連絡が取れ心強い面がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域密着型としての理念の変更はしていない。地域との付き合いは今後の課題となっている。評価の意義の理解と活用では改善されている。市町村との連携は法人が主に行っている。同業者との交流を通じた向上では他のグループホームとはほとんど交流が無いため、地域密着型連絡協議会に管理者は加入したいと思っている。鍵を掛けないケアの実践では改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 昨年の評価に基づき会議にかけ職員全員で取り組んでいる。担当制をとりそれぞれが自己評価を行っている。管理者がまとめ記録した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度定期的に行っている。家族の参加があり意見も出ている。施設からは入居者等の状況報告がされている。地域の民生委員からは地域の行事案内など情報ももらっている。家族から、より交流を深めるために利用者との外食会がしたいと意見が出て、実現されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的に開催されている運営推進会議には家族の参加が多く、管理者は家族に意見を聞きたいとその都度伝えている。意見箱も設置されているが、面会時などに、職員は家族から心配事など無いか、聞きだしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>田園地帯に法人の複数施設があり、地域との関係を築くのはグループホーム単独では困難がある。昨年老人会の行事に参加予定だったが、雨のために実現しなかった。今後も地域の行事参加などで地域との関係を築く予定でいる。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は地域性を謳っているが、グループホームの理念では、地域との関係が謳われていない。	○	昨年の外部評価でも期待しているが、新たな理念は作られていない。管理者は地域との関係を築きたいと考えている。理念に謳う事でホーム全体の共有につながるので、地域との関係を意識した理念の作成を期待している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念にそれない支援を考えている。日々のサービスを振り返り理念の共有がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議は地域の人が参加して行われているが、グループホームとして積極的な働きかけはしていない。	○	法人内ではグループホーム単独での交流はしにくいところもあるが、管理者は地域との関係性を築くことを考え、「にいろ便り」を作成している。運営推進会議などを利用しながら地域との関係を築く努力をしている。不定期だが、踊り・紙芝居などの慰問がある。これらを継続してグループホームあげでの地域との交流を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員全員に分担をして記入してもらい取りまとめている。去年の評価は施設に貼られている。職員は去年の評価を理解しサービスに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催されている。施設からは現状報告などされている。家族からは多くの意見が活発に出されている。家族から職員、家族、利用者との交流がしたいという意見が出て、介護相談員も参加した外食会が実現した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が主に行っている。グループホーム単独での行政との連携などは行っていない。	○	法人の事務担当者が行っている。管理者が直接行政と係わり情報の交換が出来る機会を持つことを期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は電話や便りで家族への報告をしている。面会時にも外出の様子など報告をしている。「にいろ便り」が玄関に掲示されていて、行事・外出などの写真が添えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱が設置されている。また運営推進会議でも意見を言ってくださいと伝えている。管理者は面会者にも何でも言える雰囲気を作りや意見を聞く努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は基本的に利用者には説明をしていない。運営推進会議では報告している。新入職員の場合は家族にも紹介している。管理者の交代があった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人の事務が管理している。研修には参加している。参加者は研修内容を復命書にて報告している。	○	認知症研修、実践者研修、管理者研修などに参加している。しかし限られた人の参加であるため、段階的な研修の機会がどの職員も持てるように調整してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡協議会には加入していない。近隣のグループホームとの連携も今のところ無い。	○	地域密着型連絡協議会には加入していない。職員も他グループホームとの交流がなかなか無いので、グループホーム特有の問題解決、ストレスの解消が難しい。他施設職員との交流により問題解決のヒントや仕事への情熱など職員の精神的な安定も考慮して、同業者との交流を図ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者で見学に来てもらい、ホームの雰囲気を味わってもらい、利用に結び付けている。またお茶など飲みながら職員と話をして慣れてもらい入所してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は会話を通して昔の話の中から生活の智恵などを教えてもらっている。季節の行事、その時に準備するものなど共に支えあいながら支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制になっているので担当者は利用者から意向を聞きだしている。その意向は介護計画に反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議で担当者・ケアマネジャー・管理者・職員でプランを立てている。ケアプラン作成に対して家族の同意をケアマネジャーが取っている。作成時に必要な時は家族も参加してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月ごとにされている。また随時の見直しもされている。1ヶ月毎のモニタリングもされている。	○	ケース会議にて見直しと随時の検討がされ見直しに結びついている。モニタリングが毎月されているので、3ヶ月毎の見直しを希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者、職員は通院支援、他の施設との連携、など柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の希望する主治医となっている。家族の希望があれば協力病院に変更も出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての指針がある。またグループホーム独自の指針も検討もされている。家族の意向の確認をその都度行いながら家族の希望に沿う支援をしている。契約時にも家族に説明を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個性を尊重しその人の嫌がる事はしない。名前は基本的に姓で呼んでいる。言葉を掛ける時にも配慮している。職員は入職時に個人情報保護の誓約書を書いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事の時間が決められているが利用者はその人のペースで暮らしている。食事は栄養課が管理していて、1時間以上たった場合は食中毒などを考慮して廃棄している。そのときには補食を食べてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養委員会があり、利用者の嗜好を聞いている。利用者の希望のメニューが取り入れられている。食事作りや下膳などにも利用者自ら参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望者には毎日の入浴が出来る体制が整っている。また夕食後の入浴にも対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれ役割があり清掃、裁縫、食事の準備、また楽しみごととして塗り絵、散歩がある、気晴らしの支援として外食や季節の行事などが用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出掛けたり、毎日のラジオ体操の後デッキに出て歩くなど戸外での支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアに取り組んでいる。職員は鍵を掛ける弊害を理解している。帰宅願望の強い人の場合、職員の手薄な時は鍵を掛けたこともあったが、今は鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人は年に2回消防署の協力を得て消火訓練を行っている。施設はその他にも不定期に訓練を行っている。今後は地域の人達との共同の訓練を考えている。。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。水分の目安は無く記録としても残されていない。	○	一人ひとりの水分摂取量が確認できるように、水分摂取量の記録をとることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテレビ、テーブル、椅子等があり、くつろげる雰囲気作りがされている。また神棚があり大黒様が飾られている。窓は広く明るく、テラスでもくつろぐ事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個性が現れている。使いなれたものの持込がされている。ベッド、整理箆筒、椅子、作品、写真など飾られている。		